

## 評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成21年1月30日

事業所番号	2775004647	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	医療生協かわち野生活協同組合	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103号
事業所名	グループホーム かわち野	評価調査日	平成 21 年 1 月 25 日
所在地	東大阪市加納1丁目9番21号 電話 072-968-6560	評価確定日	平成 21 年 2 月 2 日

【情報提供票より】 (平成21年1月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数 18 人
職員数	21 常勤 11 人 非常勤 10 人 常勤換算 14.4 人

## (2) 建物概要

建物の構造	木造 2階建ての(1階～2階部分)
-------	----------------------

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,000円	その他の経費 (月額)	15,000円	
敷金	無 (			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	300,000円	償却	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500円		

## (4) 利用者の概要 (1月10日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	9名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢 平均	83才	最低	66才	最高	95才

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	生協加納診療所 ・ 西倉歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

ホームは開設後4年目を迎えるが、職員の殆どが開設年からの勤続者で、利用者には笑顔の生活を送って頂いている。利用者の毎日の生活に関する記録類は、職員の日々の介護に活かされ、介助も、し過ぎのないよう、特に配慮されている。施設の内外は4年目ではあるが、管理が行き届き清潔感がある。又、運営上、定めた各種の会議や研修会等も遅滞なく行われ、記録も保管されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	運営推進会議、家族会等を含めて地域の方々との交流は順調に実施されている。ホームの運営については、職員の経験年数が3年以上で、チーム体制により進めている。終末の看取りについては、入所時に話し合いの上で了承して頂き、医療機関等への搬送となっているが、職員のレベルアップを更に図って、より安定した取り組みになるよう検討課題としている
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は、事業所の運営が4年目を迎え、職員も安定しているので、管理者、計画作成者の作成した取り組み報告案について職員間で検討をした後に作成された。又、利用者の介護記録のシステムとしての検討を課題として取り組んでおり、その一環としてセンター方式の研修会への出席も進めている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4、5、6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎を原則として開催されているが、ホーム側からの報告を基に質疑応答をしながら検討している。更に、この会議に、ご家族代表にも出席して頂き、ご提案等も含めて改善につないでいる
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)
	運営推進会議や、玄関の投書箱でご提案等を伺っているが、ホームでの行事開催時には、同時に家族会を開催して短時間ながら話し合いの場としており、運営上のご意見等があれば、直ちに改善に役立たせている
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の行事、ホームの行事の相互に案内等で参加したり、来て頂いたりしている。ホームの組織の関係者の方が、周辺地域に住んでおられることもあって、情報交流は出来ている

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
<b>1 理念と共有</b>					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の生活協同組合の施設で、組合員の合意のもとに、理念も掲げて運営されている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月一回、定例職員会議を開催し、理念の実践に向けて確認しており、利用者の一人ひとりに合わせた対応を実践している		
<b>2 地域との支えあい</b>					
	3	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	事業所は、地域の組合員を始め、自治会等の役員さん方に支えられている		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	4	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去3回に評価の経験を重ねた職員が過半数を占め、今回も管理者の指導の下に、評価の取り組みを行った		
	5	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	奇数月の第4金曜日に開催しているが、ご家族代表を含め、毎回質疑応答で改善についてのご意見を頂き、実践に取り組んでいる		
	6	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターとの情報交換が行われ、市の担当者のご指導や、情報を頂いている		
<b>4 理念を実践するための体制</b>					
	7	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書に近況報告を記載し、来訪時には個々に日々の生活について報告をしている。又、写真入りの「施設たより」も発行している		
	8	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議等で、ご意見、ご提案などを頂き、運営に反映させている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は開設以来、4年目を迎えるが、職員の離職、移動は最小限となっていて、運営への支障は殆どない。		

## 5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はスキルアップを心がけており、管理者は職員を研修計画に従って研修会出席を勧めている。尚、研修費、交通費は運営者負担としている		
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	各種の会議や、研修会等で知り合った、他の施設関係者との交流が出来初めている		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

## 1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染んで頂くために、日帰りや、家族との宿泊等、工夫しながら勧めている		
--	-------	--	------------------------------------	--	--

## 2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ユニット毎に1家族と考えて話し合うように図っている。特に、食事の準備や、テレビを全員で観るなど、配慮している		
--	-------	--	--	--	--

## III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

## 1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人について、職員も情報を交換して、思い違いや誤りのないようにしている		
--	-------	---	--	--	--

## 2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	より良い介護が出来るよう、1人ひとりの記録の取り方について、管理システムの見直しから準備を進めている		
--	-------	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間内に利用者の変化を見た際には、職員と関係者との間で情報確認と話し合いをして、新計画作成を行っている	○	ご家族との計画変更の確認については改めて検討して欲しい
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、ご家族の状況に応じて、柔軟な支援を実施している		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	入所時に本人、ご家族の承諾の上、事業所が契約した診療所の内科医師、或いは別途、歯科医師の、夫々の往診の了承を得て受診してもらっている		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までは特に問題もなく推移しているが、今後のこともあるので、方針を考慮する段階としている	○	職員との話し合いと研修を予定して欲しい
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1 その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、利用者と職員との関係期間が長くなるほど配慮が必要として、注意をしている		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先しないよう、利用者の意向に沿うようにしている。支援は個々の方の出来る能力を活かすように行われているので、利用者は各自のペースで行動ができることを楽しんでいる		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には出来るだけ手伝って頂くように、配慮している、リクエスト・メニューにも応じている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		安全上、出来るだけ定められた時間内の入浴としているが、柔軟に対応を行っている

## (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		一人ひとりの好みがあるので、夫々に応じて、出来るだけの対応をしている
	25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している		職員のやり繰り等で、外出には出来るだけ対応している

## (4) 安心と安全を支える支援

	26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		玄関の鍵は原則的には開けている。階段へは鍵掛けをしている
	27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		消防署員の指導による避難訓練を実施している。近所の方々との交流は少しずつ出来ており、地域の組合員とも話し合っている

## (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		高齢者用の食材を購入している、水分も含め、摂取量のチェックが行われている
--	----	----	--	--	--------------------------------------

## 2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

## (1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		清掃には細かく配慮され、清潔感があり、室内の飾りも季節感を持たせている。テレビの音も大きすぎないよう工夫されている。又、換気と温度調節もよく気を配っている
	30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		居室は個々の好みに合わせて家具等を持ち込み、居心地の良い生活を送っておられる